

SAO競技強化合宿

…見谷昌禧氏 & スキースクールとタイアップ

競技力の向上を図り、県総体、SAJ・SAKポイントレース、および直後の小田選などでの上位入賞を目指して、「SAO競技強化合宿」を行います。今回は昨年末、SAOの会員の皆さんに競技への取り組み方を熱く語っていただいた見谷昌禧(みたにまさよし)氏のホームグラウンドである長野県飯綱リゾートスキー場で2日間充実の合宿になります。

毎年ワールドカップの現場で取材しながらのスキー理論をベースにしたコーチングの基での練習は、SAK競技登録選手はもとより、技術選や小田選などこれから競技を目指すスキーヤーにとっても得るものが大と確信します。

- ①日時 平成17年1月29日(土) 9:00集合
～1月30日16:00解散予定
- ②場所 飯綱リゾートスキー場 現地集合・現地解散
長野県上水内郡牟礼村川上2755-345
<http://www.iizuna-resort.com/>
- ③宿泊 シャレー・シャモニー(見谷スキースクール直営)
TEL:026-253-6636
<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~mss/>
- ④内容 GSTレーニン、SLTレーニン、専用バーン
Video撮影、ミーティング、現地コーチ2名予定
- ⑤講習費 2800円/日予定
(通常料金4000円の3割引!!)
- ⑥申込 SAO競技担当まで早めに申込みください
定員 15名以上



連絡先 (SAO競技担当)

岩田 国雄 0463-84-5672 Kunio_Iwata@ydk.yokogawa.co.jp
栗野 清道 0465-68-6098 kuri@ad.wakwak.com
斉藤 学 0465-35-8736 matd.fam@nifty.com
川本 恵美 0465-72-2141 emi3@k5.dion.ne.jp

見谷昌禧
(みたにまさよし)



1938年、樺太・真岡生まれ

1960年、スコーバレー(アメリカ・カリフォルニア州) 第8回冬季オリンピック日本代表

1962年、シャモニー(フランス) アルペンスキー世界選手権日本代表

ヴィラルール(スイス) アルペンスキー・ユニバシアード日本代表

1969年、札幌オリンピック日本アルペンチーム強化コーチ就任。

日本選手を最初にワールドカップに参戦させたコーチである。

現在は飯綱リゾートスキー場・菅平高原つばくらスキー場でポールのトレーニングを行っているアルペン競技専門のMSS見谷スキースクールを主宰。

現場主義を貫き通し毎年必ずワールドカップの現場でビデオや分解写真で取材している、世界でも数少ないスキー理論家の一人である。

--略歴は「SKI&SKI」Webサイトによる--

【参考】

見谷昌禧氏公演の概要…平成15年12月3日(水)

* 小田原スポーツマンのBBSより引用しました。

昨年暮れの話です。平成15年12月3日(水)に見谷昌禧氏の講習会が、小田原市鴨宮の「いそしぎ」で行われました。内容概略を以下に記します。

- ・外足に乗る、足首、膝の前屈、くの字姿勢。
- ・スタート前には、膝の屈伸10回、深呼吸3回。ポールセットを思い出す。
- ・内足に早く乗ることについての誤解。
- ・GS～ポールを過ぎたら次のインポールに上体を正対させて、次のターンに入る。
- ・SL～ポールを過ぎたら、次のターンのきっかけを作る。インターバルは関係ない。
- ・ポールとポールの間は跳んでいく(リバウンドを生かす)～エアターン。
- ・トレーニングはとにかくスラロームフットワークを行う(400m)。～できるだけ単純化する。
- ・ゴムひもを高さ30cmに張って、スラロームフットワーク。

後日小田原スキー協会鈴木会長に届いた見谷氏のメールの中から

スキーは足首をまげることがテクニックとの生命線です。

スキー靴を取り出して、ヒザの前屈をくり返しておくこと。

スネの部分が痛くなり、ナショナルチームの選手は毛がすり減ってなくなってます。

シーズン当初、スネの部分が痛い人は前傾フォームが正確に出来ている証拠です。

ビデオの中でも上手な人ほど足首、ヒザが前に曲がっております。

私達との違いは、ヒザの前屈角度の深さのみです。

ナショナルチーム入りする選手を見るとき、ヒザの前屈角度をみるだけで判断出来ます。

雪面から近いところがキーポイントなのです。

皆様方に、ヒザの前屈運動を1日100回位おこなうことをお伝えしておいてください。

スキー上達の近道です。」